

解答形式

記述式とマーク式の併用。

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・**やや増加**・増加) ※3(A)(B)(C)を除く

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化) ※大問分析をご確認ください。(3(A)(B)(C)を除く)

出題の特徴

読解総合、聞き取り、英作文、文法・語法、英文解釈の各分野から出題されている。

その他トピックス (入試改革の方向性を踏まえた目新しい出題など)

- ・ 1(B)の記述問題では、2018年度に出題された英語による要約問題が姿を消し、空所に単語を補充する問題が出題された。
- ・ 2(B)で2018年度に引き続き、和文英訳が出題された。
- ・ 3(A)(B)(C)の設問の選択肢は2018年度に引き続き、5つずつであった。
- ・ 3(A)(B)は内容的に関連している設問が出題された。従来この出題形式の場合、3(A)の話者が3(B)にも登場していたが、2019年度では3(A)の話者は登場せず、司会者のもと別の人物2人が3(A)の講義の内容について議論するという出題形式であった。
- ・ 4(A)が2018年度の語句整序問題から正誤問題になった。

英語

東京大学 (前期) 2/3

<大問分析>

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
1(A)	読解総合	「ヨーロッパにおける 児童の扱いの変化」 (321 words)	「ヨーロッパで生じたとされる変化の内容」を要約するよう指示があった。本文の内容・展開は比較的把握しやすいが、論点を取捨選択し制限字数以内で答案をまとめるのにやや苦勞する。 《出典》 <i>Children's Rights and Social Work</i> (2016) by Hanita Kosher, Asher Ben-Arieh, Yael Hendelsman	標準
1(B)	読解総合	「音楽は共通言語か」 (780 words (本文 702 words+選択肢 78 words))	2018年度から空所が1つ増え、6箇所の文補充問題となった。ダミー選択肢は2つ。指示語などの手掛かりが明確で、迷う箇所は少ない。2017年度に出題された単語補充問題が出題された。 《出典》 “Is Music a Universal Language?” <i>Psychology Today</i> (July 31, 2015) by David Ludden	標準
2(A)	英作文	「新たな祝日」 (60~80 words)	提案したい「新たな祝日」の内容、意義、ならびにその祝日が望ましいと考える理由を述べるという設問が出題された。「意義」と「理由」を分けて書くのはやや難しい。	やや難
2(B)	英作文	和文英訳	2018年度に引き続き和文英訳が出題された。英訳の際、とりたてて工夫を要する箇所はなかった。	標準
3(A)	聞き取り	—	選択肢は昨年度より短くなった。英文最後の内容の要約文を完成させる問題が出題された。	—
3(B)	聞き取り	—	内容は3(A)に関連している。話者は3名。司会者以外の2名の意見の相違を聞き取ることが求められている。	—
3(C)	聞き取り	—	出題形式は、英文完成型が2問、英問英答型が3問。	—

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
4(A)	文法・語法	正誤問題 「18世紀の偉大な女性数学者」 (561 words)	2年ぶりに正誤問題が出題された。2017年度と比べるとやや判定が難しいものも含まれている。 《出典》 “Maria Agnesi, the greatest female mathematician you’ve never heard of” <i>Metropolitan Digital</i> (May 15, 2018) by Richard Gunderman	標準
4(B)	英文解釈	下線部和訳 「見返りを求めない私の親の人生観」 (301 words)	構文は難しくないが、日本語に訳しづらい語句が含まれている。 《出典》 “A Pet Tortoise Who Will Outlive Us All” <i>The New York Times Magazine</i> (May 17, 2017) by Hanya Yanagihara	標準
5	読解総合	「雲に取り憑かれた男」 (997 words)	記述式の説明問題が2問出題された。また、語句整序(10語)問題が2018年度に引き続き出題された。 《出典》 “The Amateur Cloud Society That (Sort Of) Rattled the Scientific Community” <i>The New York Times Magazine</i> (May 4, 2016) by Jon Mooallem	標準

注：区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」

難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- 東大は、設問形式に毎年のように変化があり、2019年度と同形式の設問が来年度も出るとは限らない。よって、過去の多様な形式を踏まえて、さまざまな設問に取り組み、形式の変化に対応できるようにしておく必要がある。東大英語の攻略には全般的に以下のような対策をとっておかなければならない。
- 読解に関しては、設問形式にある程度の変動はあるものの、「文脈把握力」を主に要求している点では、根本的な部分に変わりはない。要求された課題を念頭に置いて、一定以上のスピードで英文を読み解き、必要な情報をまとめる練習が有効である。また、日本語表現能力を高めることも怠ってはならない。
- 作文に関しては、基本的な知識の正確な運用が求められている点は変わらない。今後も形式やレベルの変動があることは予想されるので、多様な形式で練習を積み、添削指導を受ける必要がある。
- リスニングに関しては、過去問を中心に、基本的な聞き取り能力を養い、情報を整理しながら話の展開をつかむように心がけるべきである。また、リスニング力の向上につながるので、書き取りの練習も積んでおくとういだろう。